

赤十字奉仕団 だより

SEKIJYUUJI
HOUSHIDAN
DAYORI



Vol.
51
2026.9

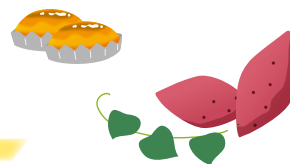


赤十字の基本原則
人道・公平・中立・独立・奉仕・単一・世界性

日本赤十字社アンバサダー
俳優 上白石 萌音さん

鶴来赤十字奉仕団

家族3世代によるボランティア活動



鶴来ふれあい赤十字奉仕団 金丸 和弘

5月8日に石川県白山市の赤十字農園でサツマイモの苗植えを行いました。

私たち鶴来ふれあい赤十字奉仕団などの方々15名が参加。そこには、家族3世代で参加した山下彩香さんの姿もありました。

大学1年生の山下彩香さんは高校1年生の時から奉仕団の同活動に参加。食事や料理に興味をもち、今年から大学で栄養学を学んでいます。

「祖父母に持病があり、食事に気を付けていたことから、管理栄養士として、病院で働きたいと思い、進学しました。奉仕団にはシニアの方も多いですが、楽しいので、毎年参加しています。ご近所さんとの交流もいいですね」と語ります。

この日は叔父の井田良徳さん、祖母の井田他美子さんも参加。サツマイモの収穫及び収穫したサツマイモをバザーで販売し、調理したスイートポテトを試食提供するなど、この4年間、家族3世代で活躍しています。

「昨年、スイートポテトは大好評でした。今年は紅はるかをたくさん植えたので、収穫も楽しみ。今年も家族で参加できて嬉しいです」と笑顔で話しました。



サツマイモの苗植えをする山下彩香さん。
無農薬のサツマイモで調理したスイートポテトはみなさんから大好評!



祖母の井田他美子さん(写真左)は「積極的に行動してくれるので頼もしい孫です」と嬉しそうに話す

赤十字社講習100周年

講習普及への思いと今後の展望

安全法奉仕団 福井 有澄

日本赤十字社講習100周年おめでとうございます。私自身は平成17年(2005年4月)から安全法奉仕団に入団し、100年分の20年の歴史を担うことができ、とても名誉なことだと思っています。「人のいのちを救う方法や健康で安全に暮らすための知識と技術を伝える講習」を大正15年(1926年)の衛生講習会から始めて、令和8年(2026年)救急法等まで100年間に亘って社会貢献の一翼を担った数多くの諸先輩指導員の仲間入りできたことも誇りに思います。今後は次の100年に向けて、講習会等がより多くの人に受講してもらえ、赤十字社のよき理解者を増やせるよう鋭意努力していきたいと思っています。



金沢百万石まつりで救護活動に従事する福井さん(写真右)

加賀地区チャリティバザーを 終えて

加賀市赤十字奉仕団 辻 薫

私達加賀地区は、六つの市町（美川・松任・鶴来・能美・小松・加賀）から成り立つ団体で、毎年六ヶ所の会場を回り、今年は加賀市が担当。加賀温泉駅前のアビオシティで開催いたしました。会場の手狭さや、打合わせ不十分等から小さなトラブルもありましたが、手慣れたスタッフ皆さんのお陰で、滞りなくその場を収めて頂き、頼もしく感じた一面もありました。私達だけでは到底売り上げる事のできない程の金額を、六倍の知恵と力を重ね、最後は素敵な絆も生まれ、来年の再会を約束し解散しました。令和8年熊本地震に対する義援金としての寄付も実現し、1日も早い復興をお祈りせずにはられませんでした。



笑顔でお客様に対応する辻さん



たくさんの方々が会場にご来場されました

Bazaar

金沢地区チャリティバザーを 終えて

富樫赤十字奉仕団 磯部 智子

恒例のチャリティーバザーが8月23日にアルプラザ金沢にて開催されました。オープン10時前からたくさんの方々の列となり、このバザーの人氣がうかがえました。バザーの売上金が令和8年熊本地震義援金としての寄付になると聞き、お客様との対応も楽しみながら売り上げに貢献したいと思いました。全国のいたる所で災害があり、いつ我が身にも起こるかもしれません。支援を受ける立場になりうる事を考えると、このような活動はこれからとても重要になりますね。金沢地区の各地域より商品の提供を頂き心よりお礼申し上げます。



Charity



収益金は令和8年熊本地震の義援金になると聞き、何回も商品をご購入くださるお客様もいました

金沢百万石まつり 救護ボランティアでの学び



北陸大学 学生赤十字奉仕団 MY START

紺谷 華蓮

百万石まつりの救護ボランティアとして、体調不良者の救護や迷子の搜索を行いました。体調不良者に迅速に対応する救護ボランティアの姿を見て、何も起こっていないからと安心するのではなく、常に周囲に目を配り、何か起きたときにすぐ対応できるように備えておくことの重要性を学びました。また、一人一人のボランティアがまつりを安全に運営するために責任感を持って行動していることも印象に残りました。今回の経験を生かし、これからも周囲の安全に気を配り、自分にできることを考えて責任を持って行動していきたいです。



3年連続で救護ボランティアとして活動した紺谷さん

ご当地ハートラちゃん

「石川県ぎゅっと ハートラちゃん」のご紹介

特徴的な地形は石川県民にとって慣れ親しんだ形でもあるため、ご当地を表すモチーフとして選定しました。

赤十字は石川県を暖かく包み込むように支え寄り添っているということを表現しており、復興に向けた事業をはじめ県内のさまざまな赤十字活動の場面での積極的に活用していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします！

